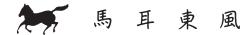
\$\\^{\}\$\\\^{\}\$\\^{\}\$\\^{\}\$\\^{\}\$\\^{\}\$\\\^{\}\$\\^{\}\$\\\^{\}\$\\\^{\}\$\\^{\}\$\\\^{\}\$\\^{\}\$\\\^{\}\$\\^{\}\$\\^{\}\$\\^{\}\$\\^{\}\$\\^{\}\$\\^{\}\$\\\^{\}\$\\^{\}\$\\\^{\}\$\\\^{\}\$\\\^{\}\$\\\^{\}\$\\\^{\}\$\\^{\}\$\\\^{\}\\\\^{\}\\\^{\}\\\\^{\}\\\\^{\}\\\\^{\}\\\\^{\}\\\\^{\}\\\\\^{\



昨年7月スイスのシンクタンク「世界経済フォーラム」が、各国の男女格差の現状を評価した世界男女格差報告書の2022年版を発表した。経済、教育、健康、政治の4つの分野のデータから算出されたジェンダーギャップ指数で日本は、146カ国中116位で主要7カ国(G7)で最下位であるだけでなく、フィリピン、タイ、ベトナム、インドネシア、韓国、中国等のアジア諸国より低い順位であった。この結果は、依然として日本が男性優位社会、言い換えれば女性が差別されている国であること示している。ちなみに世界1位がアイスランドでフィンランド、ノルウェーと続いている。なお、分野別にみると日本は、教育分野では世界1位であるが、政治と経済分野の値が低いため大きく順位を下げている。

日本国憲法第14条には「全て国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分または門地により、政治的、経済的または社会的関係において差別されない、」と謳われている。この憲法のもと1972年に男女雇用機会均等法、1991年に育児・介護休業法、1999年男女共同参画社会基本法等が制定され、女性が働きやすい制度が整備されてきたが、憲法が施行された1947年から76年経た今日でも男女平等の社会とは言い難い。

われら獣医師の世界ではどうであろうか? 2020年の 獣医師法第22条に基づく届出によると,40,251名の獣 医師のうち女性が33.3%を占めている.年代別にみると 30~40代では約半数近くが女性で,20代では52.7%と 半数以上となっている.獣医大学の女性学生の比率も53% であることから、今後とも女性獣医師が増加し.近い将 来男女同数となるものと思われる.女性の医師及び歯科 医師の比率が23%及び25%であることと比較しても, 獣医師の職場では多くの女性が活躍しているといえる.

人数的には男女平等に近づきつつある獣医師の職場で はあるが、どの職場においても性別役割分担意識や無意 識の思い込みからくる不平等が未だに残っているとのこ とである. 法的な整備や職場環境での改革が必要である ことはいうまでもないが、それらの実効性を妨げている 最大の理由は、「男性の差別意識と無理解」と「それを知 らしめようと努力しない女性の無気力」にあると考える. 誰もが生活するうえで必要な家事や育児は女性の分野と いう意識から脱却しない限りは、男女平等の社会の実現 は遠いであろう. かく言う私は、共働きをし、家事・育 児にかなり取り組んできた. 妻の評価は. 同世代の男性 の中では良くやる方とのことであった. しかし,「あなた が考える家事・育児の量を100とすると、その40%を 分担しているが、実際は200あるので、あなたは20%し か分担していない」という厳しいものであった. 例えば 週に何回か料理はしたが、料理で汚れたガス台や換気扇 の掃除までには気が回らなかった. 一事が万事である. 40年以上も前の台風の日、保育園に0歳の長女を迎え に行った際、保母さんから安全のためにおんぶして帰り なさいといわれ、男がおんぶするのは恥ずかしいといっ て保母さんに叱られた世代の自分である. 今では子ど もを抱っこひもで抱っこしている男性を多く見かけ、時 代の変化を感じる. 男性が家庭で50%の仕事を分担しよ うと意識改革をすること、女性がそのように男性をリー ドすること, 子どもには男女問わず家事をさせることが 重要である. 男女平等は家庭からと強調したい. (平)